

作品の閲覧

2025-11-27

『吉野葛』

何でも読もう会

書物名	『吉野葛』	開催日	出席者
作 者	谷崎潤一郎	11月25日	4名

＜作品の内容等＞

吉野の地は歴史のロマンを秘めている。そんな背景に「妹背山婦女庭訓」「義経千本桜」「二人静」「狐かい」の話題や土地の伝説、歴史が登場する。それは主人公が南朝・後南朝の歴史小説を書こうとして吉野を訪ねた。

その案内役に友人津村から、彼の母親の話を聞き、そちらに重点が移っていく。母のルーツは奥吉野での紙すきをしていることがわかる。そして・・・(あとは言わぬが花でしょう)

＜皆さんの感想意見＞

- ・花の吉野だけでなく、歴史の吉野が改めて感じられた。
- ・隠れ里吉野に行ってみたいと思うが、厳しい環境かな。
- ・白洲正子、平野敬一郎もこの本を読んだと思うと、読んでみてうれしい感じがした。
- ・どうか心ない開発の魔手が近づいてもらいたくない。
- ・南朝の血は絶えたが、川上村の郷土たちは毎年2月5日には、自天王を偲び、「御朝挾式」が1459年から絶えることなく続けられている。

なお、谷崎は、これだけの取材をしているのに、なぜ小説化を諦めたのかを意見交換した。